

AMG リハビリテーション部広報誌

リハ通信

連携・信頼・進化の AMG リハ

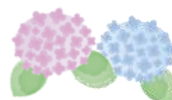
リハビリテーション部 基本方針

1. お互いに高められる関係づくり
2. 新しい時代を創出する体制づくり
3. 地域包括マネジメントシステムの確立

…ポンコツ部長のたわ言…



「我慢が出来ない」



2021/6 月号

AMG 協議会 リハビリテーション部
部長 奥村 博文

私は、子供の時から「我慢」が苦手だ。特に、じっとしていることが。

4, 5 歳の時は、よく一瞬の隙を見て、保育園から脱走したらしい。

小学校でも飽きると行動をやめ、嫌になると、逃げ出す子供だった。

中学校になると、小学校の時より授業時間が長くなり、じっとして居ることが耐え切れなくなった。

先生の話など、聞いて理解する余裕など全く無かった。



理不尽なこと（納得できないこと）をすることも「我慢」出来なかった。「いじめ」にも加担しなかった
ので、よく無視されたりした。

無視されることは、気持ちよくはないが、納得できないことをするよりは、はるかにましだった。



今もそうだが、子供の時から、好きな内容の映画でも、はじめから最後まで、じっと
して見ることが出来ない。どんなに良い場面が続いても、一度は途中退出する。だ
から、映画館で観た映画は、フルに内容を覚えている映画が無い。

並んで順番を待つのも苦手だ。そもそも、並んでまで食べたいものはこの世に無いし、並んでまで欲しい
物、して欲しいことも無い。

何か「気になること」があると、「一旦、保留にする」ということも我慢出来ない。それがすっきりしな
いと、次へ進めないのだ。

こんなだったので、どこに行っても適応できなかった。特に学校では、保育園からリハビリの学校まで、
「迷惑な生徒」でしかなかった。

唯一、心地良かった居場所はアルバイト先だった。じっとして居ないと(働き続けると)褒
められるからだ。「気になること」を次々やると仕事が早いと褒めてもらえた。忙しいとワ
クワクした。じっとして居なくて良いからだ。楽しいことをして、褒められて、お金がもら



える。怒られることばかりの人生だった私には、こんな良いことは無かった。

今は大人になったので「我慢できるようになった」と言いたいところだが、何も変わっていない。むしろ、酷くなっている。



大人になると、周りの人がバックアップしてくれる。苦手なことを我慢しなくても良くなる。立場が伴ってくるとなおさらだ。私は特に恵まれすぎている。苦手なことをしなくても、周りの人がしてくれるからだ。リハビリ部次長の干場が、仕事ができるせいで、私の「我慢できない」が改善しない。（👉人のせいにしている）

「我慢」を練習するチャンスなど、大人になるとそんなにない。慢性的なパワハラが横行している職場ならいざ知れず、働くようになると、責められることも、怒られることも学生時代より少ない。

時間が自由にならないことなどは、「我慢」になるかもしれないが、仕事内容が好きであれば、学生時代より我慢することは少ないように思う。

今は、まさに我慢の時だ。感染予防のための外出制限。レクリエーション（カラオケ、旅行、アトラクション）の制限。外食、飲酒の制限。人と会うことの制限。



日本人は、よく我慢しているほうだと思う。ダメな人が報道されるために目立つが、若い人だって、自粛に協力的な人のほうが、圧倒的に多いと思う。むしろ、やりたいことが多いだろう若い人たちに、大人たちの我慢をそのまま要求するのも、ちょっと酷なような気もする。



ちなみに、（私は電車通勤だが、私の周りでは）電車の中で酒を飲みながら、マスクもせず、大声で話す人や駅のホームで大騒ぎしているのも、コンビニの前で邪魔になる酔っ払いも、圧倒的におじさんが多いように思う。若い人たちよりも女性よりも、おじさんは、我慢が苦手なのかもしれない。

私は、家に居ることは苦痛では無いし、趣味も無い。今までより、我慢しているといった感じは、特に無い。しいて言えば、人と会えないことが辛いだけだ。

憎っきコロナ禍ではあるが、これを機に、私も我慢することを少しずつ覚え、急速に進みつつある世の中の変化に適応できる大人になろうと思う。

まあ、一応決意はしたが、リハビリ部のみなさま方には、今まで通り、私を甘やかしてほしい。



◆奥村部長ホットライン

TEL : 048-775-6466

MAIL : hirofumi.okumura@amg.or.jp

なんでもご相談ください

2021 年度新入職員研修会

令和 3 年 4 月 22 日（木）に Zoom を使用したオンライン研修会を開催致しました。
今年度は PT 171 名、OT 72 名、ST 23 名の計 266 名の新入職員が 4 月から AMG の仲間に加わりました。

研修会終了後に新入職員の方にアンケート調査を行い、「2 年目の先輩や先輩セラピストからのエールのお話が良かった」「目標設定について学べた」など沢山のコメントを頂きました。
また、「集合型での研修会を行いたい」とのコメントもございました、来年度はオンライン研修会と集合型形式の研修会を行っていきたいと考えております。

【講義内容】

①開会式挨拶

AMG 協議会リハビリテーション部 部長 奥村 博文



②新入職員研修会のねらい

AMG 協議会リハビリテーション部 次長 干場 竜志



③AMG 新人セラピストの仕事～1 日・1 月・1 年の流れを知ろう！～

講師 リハビリケア船橋 PT 吉田 依純

講師 柏厚生総合病院 OT 寺東 勇磨

講師 上尾中央総合病院 ST 青木 結菜



吉田 PT



寺東 OT



青木 ST

④行動目標の設定

講師 上尾中央総合病院 科長 高橋 一樹



⑤先輩セラピストからのエール

講師 彩の国東大宮メディカルセンター 科長 山口 賢一郎

講師 横浜鶴見リハビリテーション病院 科長 佐伯 まどか

講師 横浜なみきリハビリテーション病院 科長 廣瀬 裕介

山口科長



佐伯科長



廣瀬科長



リハビリ部の様子



各施設でグループ
ワークや個人目標
の課題に取り組ん
でもいました！



先輩セラピストからの
エールでお話頂いた
3名のチーフが動画を
作成頂き、視聴しまし
た！



PTたるもの「日々研鑽」と
生活の中からあらゆる伸びしろを模索した

運動支援

認知症支援

アクティビティ

OTの管理者になった
OTのやれること・やるべきことを皆で探した

回復期病棟立ち上げ、リハスタッフの増員
リハの啓発、地域連携、病院新築移転・・・
夢中になって働いた

浅草病院リハビリテーション科 ご紹介



見学お待ちしております♪

* 当院のおすすめポイント *

- ・アットホームでだれにでも相談しやすい雰囲気です。
- ・ジョブローテですべての病期を経験でき成長できる環境です。
- ・脳血管疾患・整形外科疾患のリハビリが専門的に学べます。
- ・訪問リハビリ件数、区内 No.1 下町の在宅を学ぶなら当院で！

【病院概要】 136床(HCU・急性期・回復期)・東京都二次救急指定病院
【リハスタッフ数】62名(PT35名・OT19名・ST6 名・助手 2 名)

【見学のお申込み・お問い合わせ先】

浅草病院ホームページよりお申込み下さい→→
HPから院内の様子が動画で見られます♪♪♪



～越谷誠和病院から～

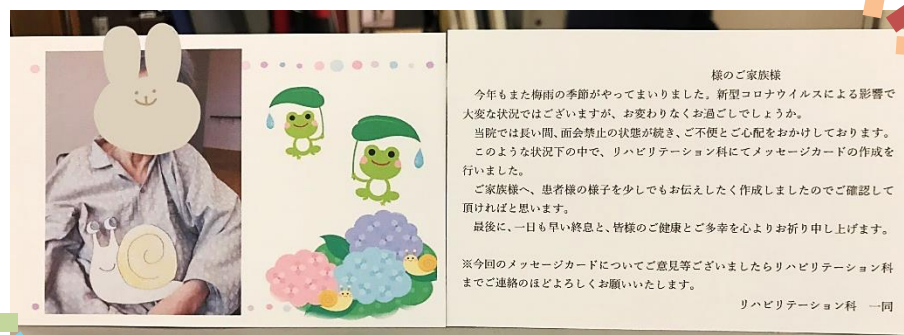
COVID-19 の流行以来、各イベントの中止や病院の面会制限が多くみられます。当院でも同様の対応を実施し、以前より患者さん同士や患者さんと職員の交流の機会が減り、患者さんにご家族が顔を合わせる機会はほぼ無くなりました。

越谷誠和病院の障害・療養病棟では、それらに対し何か出来ないかと病棟とリハビリスタッフが協力し、作業やイベントを実施しています。

1 つ目はリハビリスタッフと患者さんによる作業です。一時期は感染予防の観点から中止していましたが、最近では感染予防を実施しながら最近ではトマトが育ってきています。



2 つ目はご家族向けのメッセージカードです。リハビリや作業の患者さんの様子を同封し、少しでも患者さんの様子を伝える工夫をしています。これらの取り組みはリハビリスタッフからの希望で始まったものです。スタッフの患者さんや患者さんのご家族を思う行動を少しでも形にしていきたいと思います。



実際のメッセージカード

興味が沸いた方は是非越谷誠和病院のホームページをご覧ください！

【ホームページ URL】 <http://seiwa-amg.com/>

【リハビリ科紹介ページ URL】 <http://seiwa-amg.com/busho/riha.php>

また、YouTube にも紹介動画がアップしておりますので是非こちらもご覧ください👤

【URL】 <https://youtu.be/eR2NVtmWS8o>

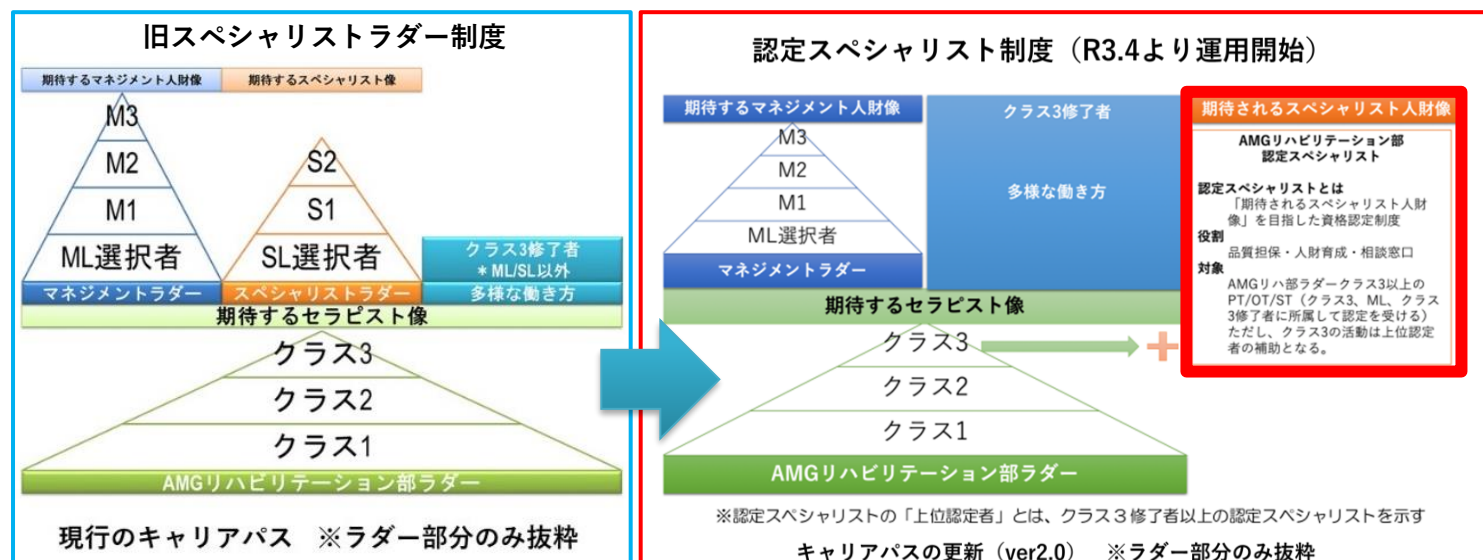


認定スペシャリストラダー制度について

AMG 協議会リハビリ部 育成委員会より

AMG 協議会リハビリテーション部のラダー制度「スペシャリストラダー」が令和 3 年度 4 月より、【認定スペシャリスト制度】に変わりました！

下の図左側が「旧スペシャリストラダー制度」右側が【認定スペシャリスト制度】となっております。



変更のポイント

- ◆ML選択者、M1、M2、M3、クラス3修了者、クラス3まで対象者を拡大
- ◆役割等級制度から資格認定制度へ変更

クラス3で認定スペシャリストになった場合

- ◆クラス3の認定スペシャリストでは活動計画書は上位認定者に委譲されている活動に限った計画とし、上位認定者と相談の上作成する。

*先輩の計画の一部を担って
経験値を増やす!!*

- ◆リハ部ラダーを修了していないことを鑑み、その活動は上位認定者の補助に限定する。

先輩のサポートを受けながらチャレンジ!!

既に 8 名の認定スペシャリストが活動中！

所属	職位	職種	認定の根拠となる資格
八潮中央総合病院 *	旧制度：S1	OT	認知症ケア専門士
柏厚生総合病院 *	旧制度：S1	PT	骨粗鬆症マネージャー
吉川中央総合病院	旧制度：SL選択者 現制度：クラス3修了者	PT	認定理学療法士(地域理学療法)
白岡中央総合病院	M1	PT	認定理学療法士(運動器)
白岡中央総合病院	ML選択者	PT	認定理学療法士(脳卒中)
津田沼中央総合病院	旧制度：SL選択者 現制度：クラス3修了者	PT	三学会呼吸療法認定士
津田沼中央総合病院	旧制度：SL選択者 現制度：クラス3修了者	PT	三学会呼吸療法認定士
津田沼中央総合病院	M1	PT	NST専門療法士

*：認定スペシャリスト制度への移行以前にスペシャリスト認定を受けたセラピスト



キャリア支援委員会 2021 年度ロールモデル紹介 第 1 弾！

【ロールモデルさんのご紹介】

氏名：山邊 潔 年齢：52 歳 性別：男性

経験年数：23 年目 勤務地：老健

現在、老健でリハビリ科チーフとして働いています。

また、AMG 協議会リハ部 キャリア支援委員会のメンバーとしても活躍しています！



私が埼玉県立大学の大学院に入学したのは、12 年前の 40 歳の時で一心館の科長から上尾中央医療専門学校に異動して 1 年くらい経ったころでした。



入学の動機はかなり曖昧で、自分の PT としてのキャリアに対する焦りなのか、学会発表を気軽にこなす先輩教員への憧れなのか、単純に大学院がかっこよく思えたのか、はっきり覚えていません。ただ、研究をしたい！という気持ちではなかったと思います。

入学時の研究テーマは介護予防でしたが、具体的な研究計画が立てられず、前に進むことが出来ませんでした。ある日、論文を検索していると、当時、教育部長だった平林先生の移乗介助動作に関する論文を見つけました。PT になる前は介護福祉士だったこともあり、「自分も介護動作で研究をしたい」と考えて、研究テーマを「移乗介助の腰痛負担」に変更しました。



テーマが決まっても、研究には多くの苦労がありました。腰部負担を計測する筋電計はマニュアルが英文で翻訳に苦労しましたし、筋電波形の処理も初めてだったので、高校の参考書を買ってきて数学や物理をやり直しました。統計や論文検索も人より時間がかかりました。

また、提出資料の作成にも時間がかかるので仕事が終わったら研究室に行くのが日課となっていました。それでも期日に間に合わず仕事が終わってから徹夜することも多くありました。



しかし、論文や資料を調べていくと、国内外の多くの研究者が、介助負担について検証をしていることを知りました。また、質問するとすぐにアドバイスや指導してくれる方も多く、苦しい中でしたが、同じテーマを持つ方とのコミュニケーションから研究が楽しくなってきました。そして、このように多くの人に支えられ 4 年間かかりましたが大学院を卒業することが出来ました。その時、私は 44 歳で入学時に小学 3 年生だった長男は小学 6 年生となり一緒に卒業式を迎えました。



大学院は、私に多くの自信を与えてくれました。大学院には多くの若くて優秀なセラピストが研究に取り組んでいましたが、最初の頃の私は、年齢や経験、職位などのプライドで、自分自身が出来ないことを認められず研究が前に進みませんでした。それでも、最後はプライドを払拭して、一人のセラピストとして研究に

取り組めたことは、大きな自信になりました。

また、研究として取り組んだ「移乗介助の腰部負担」は自分の強みになり、それが活かせる介護保険領域は、一生涯、自分が取り組むべき職域と思うようになりました。今は私より若いスタッフの方が、優れた理学療法士として活躍していますが、自分が研究した領域だけは誰よりもエキスパートと思っていますし、日々その自信を失わないように努力は欠かさないようにしています。

山邊科長から皆様へコメント

大学院は、苦労して卒業しても給与が上がるとか出世するとかは一切ありません。それでも、そこでの苦労や時間は専門職としての自信を高めてくれると思います。今は、子供の学費を心配しなければいけないので、博士課程まで行きたいとは思いませんが、臨床で働くセラピストにとっても大学院に行くことは有意義なことだと思います。



【編集・発行】

上尾中央医科グループ協議会 リハビリテーション部 <https://amg.or.jp/rehabilitation/>

〒362-0075 埼玉県上尾市柏座 1-10-3-58 TEL: 048-775-6466 FAX: 048-775-0570